

落ちるまんまで、落とさんとぞ
 仏教とは知識だけで救われるものではないというお話です。

美濃の国(今の岐阜県)に、あるお婆さんがおりました。このお婆さんは、大変な物知りでございました。読み書きさえ出来ないお婆さんでありましたけれども、お参りしている時には、一言も聞き漏らすまいと、命がけに聞いているものです。から何時の間にか、お文さまであろうとお説教で聞いた事は、すべて頭へ覚えておりました。

そのようなお婆さんでありますから、周りの方々から褒め讃えられたお婆さんでありましたけれども、ふとした病が元で、明日をもしれんという身になってからは、今までの喜びはどこへやら、一変いたしまして「地獄へ落ちる」と七転八倒の苦しみを始めました。そのような苦しむお婆さんをなんとか

してあげたいと思う実の娘さんは京都の本願寺まで香樹院御講師に教えを聞きに行かれました。そこで香樹院御講師に母のことを伝え、助けを求めましたところ香樹院御講師は「自分勝手に、地獄へ落ちるといふならば仕方が無いなあ。残念ながら落としてしまえよ」と申されました。これを聞かされた娘さんは悲しみのあまりその場で泣き崩れてしまいました。堪えきれない心

のまま帰路に着こうとしたその時、香樹院御講師に呼び止められると「南無阿弥陀仏。南無阿弥陀仏。凡夫じゃもんの。地獄へ落ちるは今更の事ではないぞ。石の自性は、沈むのが石の自性なら凡夫の自性は落ちるのが凡夫の自性でないか。その落ちるに間違いのないそのものを、落ちるまんまで、落とさんぞと呼んでくださいますところの御勅命じゃが、それでも自分勝手に落ちるつもりかいや」と阿弥陀さまの慈愛のこころ

を頂いたのでございます。その言葉を聞いた娘さんは歓喜の涙に咽び入りながら、母の元へと急いで帰り、母へ香樹院御講師の御言葉を涙ながらにそのまま伝えましたところ、この親を思うこのころの娘の一念と、大悲の親の、「助け救わにゃあおかんぞ」のこの一念とが見事に一つになって、お婆さんの胸のどん底へと到り届きましてついに、しぶといところのお婆さんもやがて、御恩の称名、喜びながら、めでたく浄土往生を遂げられました。

自分の愚かさが見えてくる

智慧の世界を無量光といいます。仏教の学びをしていきますと、仏の光に照らされた私の姿が知らされてくるのです。仏教は日本文化に何貢献したかという、それは「内観」であるとおっしゃった学者がいます。内観とは、私の姿が照らされるということ。私達

はものごとを対象化して、あれが良い、あれがよくないと、いつも外ばかり問題とします。これを対象化といいます。その時は自分が抜け落ちているのです。評論家になって自分が問われない、それが現在の科学的思考の一番の問題です。しかし

仏教はその私を問題にするのです。仏の智慧に照らされると私の迷いの姿が見えてくるのです。伝統仏教教団の開祖と言われる方々はみんな、自分の愚かさに気づいた、という言い方をされています。仏教の智慧の世界に接点を持つていると自分の愚かさ、自分の小ささというものが、知らされてくるのです。その愚かで迷いを繰り返している自分が、この世に生まれてきたということにどういう意味があるのでしょうか？

宇佐、第2佐藤病院院長 田畑 正久

さんわ便り

第159号
 発行所
 さんわグループ
 編集 広報部
 大分市森町

浄土真宗の僧侶でありまた、教育者としても偉大な業績を残された東井義雄先生が中学生の作文を紹介されています。いつも深い感動を覚えます。

「元服」

僕は、今年三月、担任の先生にすすめられて、B君と二人、ある高校を受験した。その高校は私立ではあるが、全国の優等生が集まってきた。いわゆる有名高校である。担任の先生から「君たち二人なら絶対大丈夫だと思う」と強くすすめられたのである。父

母も喜んでくれた。先生や父母の期待を裏切ってはならないと、僕は猛烈に勉強した。ところが、その入試で、B君は期待通りパスしたが、僕は落ちてしまった。

得意の絶頂から奈落の底へ落ちてしまったのだ。何回かの実カテストでは、いつも僕が一番でB君がそれに続いてきた。それに、その僕が落ちてB君が通ったのだ。

誰の顔も見たくないみじめな思い。父母が部屋に閉じこもっている僕のために、僕の好きなものを運んでくれても、やさしい言葉をかけてくれても、それがみんなよけいしやくにさわった。何もかもたたき壊し、引きちぎってやりたい怒りに燃えながら、ふとんの上に横たわっているとき、母が入ってきた。

「B君が来て下さったよ」と言う。僕は言った「母さん、僕は誰の顔も見たくないんだ。特に、世界中で一番いや

な憎い顔があるんだ。誰の顔か、言わなくなっちゃったわかってるだろう。帰ってもらっておくれ」

母は言った。「せつかく、わざわざ来て下さっているのに、母さんにはそんなこと言えないよ。あんた達の友達の関係って、そんなに薄情なものなの。ちよつと間違えば敵味方になっちゃおうような薄っぺらいものなの。母さんにはB君を追い返すなんてできないよ。いやならいやでソッポ向いていなさいよ。そしてたら帰られるだろうから」と言っておいて母は出ていった。入試に落ちたこの惨めさを、僕を追い越したことはない者に見下される。こんな屈辱ってあるだろう

かと思うと、僕は気が狂いそうだった。二階に上がってくる足音が

聞こえる。ふとんをかぶって寝ているこんなみじめな姿なんが見せられるか。胸を張って見据えてやろうと思つて、僕は起き上がった。戸があいた。中学の三集間、B君がいつも着ていたくたびれた服のB君。涙をいっぱいためたB君が。くしゃくしゃの顔で

「A君、僕だけが通つてしまつてごめんね」やつとそれだけ言ったかと思つと、両手で顔をおおい、かけおけるようにして階段を下りていった。僕は恥ずかしさでいっぱいになった。思ひ上がっていた僕。いつもB君には負けないぞと、B君を見下していた僕。この僕が合格してB君が落ちたとして、僕はB君を訪ねて「僕だけが通つてしまつてごめんね」と泣いて慰めにいつただろうか。ざまあみろ」と、よけい思

い上がつたに達しない自分に気がつくつと、こんな僕なんか落ちるのが当然だったと気がついた。

あれを見よ 深山の奥に花ぞ咲く 真心つくせ 人知れずとも

ホームページは「お墓のさんわ」で検索してください。

日出店：速見郡日出町川崎会下(空港道路入口) TEL (0977) 72-6415
 三重店：豊後大野市三重町赤嶺1041(トリアル横) TEL (0974) 22-3301
 森町店：大分市横尾2733-1(大東中学入口) TEL (097) 524-6525



南岳山光明寺 住職
